

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立豊海小学校

学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、児童一人一人のよさや可能性を十分に伸ばすとともに、心豊かでたくましく生きる子どもの育成を目指し、区民の信頼と期待に応える調和のとれた教育を推進する。そのため、次の「教育目標」を掲げる。

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

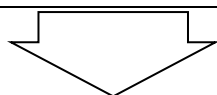
- ・一人一人の児童の個性や能力を生かし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。
- ・確かな学力の向上を目指し、一人一人の児童のもつ資質や能力を把握し、個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な内容を習得させ、それらを活用して探求できる魅力ある授業を実施する。

令和元年度「学習力サポートテスト」、「東京都の学力向上を図るための調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	○「思考力・判断力」、「表現力」の領域に課題が見られる。 ・「書くこと」に関する領域において、自分の考えを正確に表現することを意識して、情報や言葉を吟味し、目的に合った文章を書けていない。 ・「読むこと」に関する領域において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる際、叙述と自分の考えがどのようにつながるのか関連付けて表現することが苦手な児童が多い。	文章を書いたり、読んだりする学習活動に対して受け身の姿勢で取り組んでいる。
算数・数学	○「思考力・判断力」、「表現力」に課題が見られる。 ・「知識・理解」、「数量や図形についての表現・処理」は概ね身に付いている。しかし、自分の考えを様々な方法（図、式、言葉、操作、表）で使って説明することが苦手な児童が多い。 ・領域によっては学力差が大きく開くものもある。	児童は、公式を覚え、当てはめることが大切であると考えの傾向があり、複数の方法で自分の考えを説明することのよさを実感する経験が不足している。
社会	○「思考力・判断力」、「表現力」に課題が見られる。 ・「社会的な事象についての知識・理解」については概ね身に付いている。しかし、資料から事実を読み取ることに留まってしまい、その資料が意味すること、問題の解決に向けて考えられることは何か等、資料を読み解き、自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。	知識を身に付けることに意識が向く傾向があり、社会的な事象から立てられた学習問題を児童が自分事として捉えないまま学習に取り組んでいる。
理科	○「思考力・判断力」に課題が見られる。 ・実験や観察から得られた結果から考察して自分の考えをまとめたり、自分の言葉で表現したりすることが苦手な児童が多い。 ・「物質・エネルギー」に関する領域の平均正答率が区の平均正答率に比べて1.5ポイント低い。	実験・観察をすること自体に関心が集中し、どのような目的で実験や観察をするのか、その実験によってどのようなことが考えられるのかといったところまで意識できない。

体 育	<p>○「関心、意欲、態度」に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識調査から、「すすんで運動をしている」と、回答した児童の割合が78%と低く、運動することに対して消極的な児童が多い。また、運動の種目に対する関心の偏りも見られ、運動領域によって能力の差が大きい児童も多い。 ・体力調査の結果から、「投げる」運動に課題が見られる。 	<p>体育科で学習する、運動領域それぞれの楽しさやよさを実感していないため、興味関心が偏ってしまっている。「投げる」運動については、重心の移動や下半身と上半身を連動させることを苦手とする傾向が見られる。</p>
-----	--	---

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	児童の実態に応じて補習教室（豊海塾）を定期的に関き、個別指導にあたる。豊海塾では、主に算数科及び国語科の基礎・基本の定着を図る。
②授業改善	最新の教育課題に対し、柔軟に対応した授業を展開できるよう改善を図る。令和2年度はプログラミング教育に対応した授業やICT機器を活用した授業を中心に改善を図る。
③教員の指導力	「授業力」を構成する6つの構成要素である、「教材解釈・教材開発」、「指導技術（授業展開）」、「指導と評価の計画」の作成・改善、「統率力」、「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」のバランスがとれている教員を期待する。
④家庭との連携	学校便りや保護者会で学力向上についての取組等を発信することにより、全ての児童が進んで家庭学習に取り組むことができるようにする。宿題の提出率が全学級において常に85%以上になるよう目指す。
⑤体力向上	なわとび月間における、個人記録が前年度を上回ることを目指す。長縄記録会では、各学級で昨年度の学年の結果を基に無理のない目標回数を設定して練習に取り組ませる。目標を達成した学級が全体の50%以上になるよう目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	「次の授業に必要な用具を用意してから休み時間とし、授業開始までに着席して待つ」、「授業中に私語をしない」、「授業中に発言するときは返事してから立つ」など、基本となる学習規律を徹底し、落ち着いて学習に取り組むことができる環境をつくる。
取組Ⅱ	補習教室については、1学期に日常での学習や学力調査や東京ベーシックドリル等により児童の学力や学習に対する取り組む姿勢を把握する。2学期の放課後より、児童の実態に応じて補習教室（豊海塾）を定期的に関き、個別指導にあたる。

取組Ⅲ	学ぶ意欲を高め、考えをより確かにするノート指導を行う。特に技能習得、整理保存、探求思考、振り返り、これら4つの機能がノート指導の中で徹底できるようにする。
-----	---

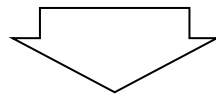
②授業改善	
取組Ⅰ	必要に応じて、デジタル教科書や大型提示装置、プレゼンテーションソフト等を活用し、視覚的情報を提示することで児童の学習効果を高める授業改善を図る。
取組Ⅱ	算数科や理科を中心に、単元のねらいに応じてコンピュータ等 ICT 機器を用いたプログラミング教育を実施する。
取組Ⅲ	ICT 推進担当の教員を中心に定期的に研修会を開催し、教員自身の ICT 活用能力を向上させる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	管理職による授業観察を行い、個々の教員の課題を明らかにし、教材の準備や指導技術、評価について、教員を指導することで、指導力の向上を目指す。
取組Ⅱ	児童の実態に応じて学年合同の授業を行ったり、一部の教科において教科担任制を取り入れたりするなど、柔軟な学習指導を展開し、指導力の向上を図る。
取組Ⅲ	教員は、学期に1回、「自己診断シート」（平成18年3月東京都教職員研修センター）に取り組み、自己の指導力を振り返るとともに、校長との面談に活用する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	生活習慣や学校のきまりについて豊海スタンダードを活用し、児童、保護者に分かりやすく具体的に提示する。
取組Ⅱ	宿題や家庭学習について、学年で分量や内容について共通理解を図る。児童に対し、内容や進め方と教師の思いを伝えると共に、保護者に対して家庭学習の啓発を行う。

⑤体力向上

取組Ⅰ	マイスクールスポーツでは、なわとび、 持久走 に継続的に取り組み、リズム感・調整力・持久力を育てる。また、仲間と協力し、工夫しながら運動する楽しさを味わわせ、目標に向かって、粘り強く、取り組む態度を育てる。
取組Ⅱ	なわとびの学校での取り組みをホームページや学校便り等で紹介し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起を継続して図る。
取組Ⅲ	体育の授業において、主たる運動につながる動きだけでなく、本校の児童の課題である「投げる」運動につながる動きを予備運動に取り入れる。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	朝の基礎基本の時間および、放課後補習教室（豊海塾）を活用して、主に国語、算数の定着を図った。朝学習に集中して取り組む習慣が付き、さらに、個に応じた指導の取り組みから、算数の苦手な児童の意欲の向上が見られた。	学力向上の効果を目に見える形にするためには継続が必要である。来年度も朝の時間を基礎基本の時間として継続するとともに、放課後補習教室（豊海塾）も今年度より回数を増やして実施する。効果の検証を学期ごとに行い、取り組みの改善につなげる。
② 授業改善	プログラミング教育は、3年以上のすべての学年で取り組んだ。どのような手順ですすめれば意図した活動になるのかを論理的に考える姿が見られた。ICT 機器を、画像や動画提示、調べ学習、ドリル学習、共同学習や発表会などで活用し、教員の授業力の向上が見られた。	プログラミング教育は、タブレットが導入された年度後半に実施が集中したため、来年度は年間を通して計画的に行う。一人一台タブレットを活用し、各教科の理解を深め学力向上につなげるとともに、情報活用力を育成するために、教員の ICT を活用した授業力向上のための研修や情報交換を充実させる。
③ 教員の指導力	OJT グループで授業を見合う仕組みを整え、グループごとの課題の設定、指導案検討や授業研究、課題の検討などを行うことができた。学校全体で互いの授業を見合う空気が醸成され指導力の向上につながった。	OJT グループによる授業研究の取り組みを継続するとともに、グループ以外の授業も公開し合えるような仕組みを整える。校内研究では6年間を通じた地域を題材とした学習の年間計画を整え、主体的、対話的で深い学びにつなげる。
④ 家庭との連携	学年便りや保護者会資料で学力向上についての取り組みを発信した。すべての児童が家庭学習に取り組むことができるように、家庭学習ノートの使い方や自主学習の方法等も継続して指導した。宿題の提出率はどの学級もほぼ、85%を超えている。	令和2年度はコロナ禍のため、直接見学する学校公開ができなかった。そのため、子供たちの学習への取り組みや成果を伝えることが難しかった。学年便り、保護者会などでの発信に加え、公開授業や HP 等で子供の学びの姿を見ていただけるよう工夫する。家庭学習については引き続き家庭と連携する。
⑤ 体力向上	コロナ禍のため、できることは限られていたが、間隔を開け互いに接触しない形でできる運動を行い、体力向上に努めた。マイスクールスポーツであるなわとびは、学級の体育の時間に行うことで、今年度も継続することができた。	感染防止対策を行った上で、運動の機会や運動量を確保していくことが課題である。マイスクールスポーツなわとびは、個人の目標設定、学級の目標設定をして練習に取り組ませる。本校の課題である「投げる」運動については、予備運動に取り入れ日常的に取り組む。